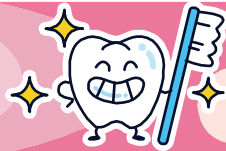




歯のはなし



歯がグラグラ
する!?

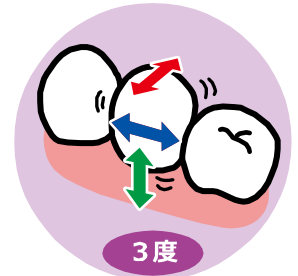
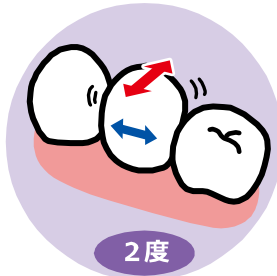
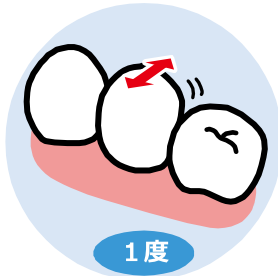
歯が揺れる「歯の動揺」について

「歯の動揺」とは、歯がグラグラと動くことをいいます。少しぐらい歯が動くのは生理的な現象で問題ありませんが、揺れが大きくなってきた場合は注意が必要です。そこで今回は、歯の動揺やその原因などについてお話しします。

歯の動揺度

歯の揺れの大きさのことを動揺度と言い、動く大きさによって0度～3度に分類されます。0度は正常の範囲内ですが、1度～3度へあがるにつれ状態が悪化していくことになるため注意が必要です。また、それぞれの動揺の特徴ですが、まず1度では前歯は前後に、奥歯は左右にと、歯のない方向にだけ動揺します。しかし、2度になると歯が並ぶ方向にも横揺れするようになり、3度になると加えて上下にも動くようになります。

| 動揺度 | |
|-----|-----------|
| | 動きの大きさ |
| 0度 | 0.2mm以内 |
| 1度 | 0.2mm～1mm |
| 2度 | 1mm～2mm |
| 3度 | 2mm以上 |



動揺する原因

歯周病

「歯が揺れる＝歯周病？」と心配になるかもしれませんが、歯周病になると動揺は2度～3度に進行した状態となります。ただし、ここに至るまでには歯ぐきの腫れや出血の症状が出ますので、その段階で治療を開始すれば大丈夫です。しかし、動揺が3度になると歯を支えている組織自体が破壊されている可能性があるため、抜歯する確率は高まります。歯ぐきの不調を感じたら、放置せず受診しましょう。

噛みグセ

あまり知られていない原因のひとつに、噛みグセがあります。皆さんは硬い食べ物を食べる時、つい同じ場所で噛んでしまっていないでしょうか？このように使いやすい歯があると、その歯にだけ負担がかかりやすくなり、動揺を引き起こす原因となってしまうのです。こういった場合、噛み合わせを調整することで解消する場合があります。



歯ぎしり

歯ぎしりは自分が思っている以上に力がかかっていて、毎日繰り返されることによって歯には相当な負担となります。動揺だけでなく、歯がすり減ったり、欠けたり、割れたりする可能性もあります。気になる方は、就寝時に歯ぎしりを予防するマウスピースを使用してみましょう。

かぶせ物の劣化

歯の治療で入れたかぶせ物が劣化して動揺することもあります。中には、かぶせ物の内部でむし歯が再発してグラつくことも。歯の様子がおかしいと感じた時は早めに受診しましょう。



歯の根の先に膿がたまる「歯根嚢胞」、歯の根が折れる「歯根骨折」でも歯が動揺する場合があります。一般的に歯の動揺は自然には治りませんので、そのまま放置せず受診しましょう。